

第11章

アフリカの 将来人口予測 ——むすびにかえて



ジンバブエ・ハラレ市内の私立幼稚園（撮影：山田文恵）

本章は、終章として、アフリカ諸国の人口分析に重要な人口データの状況を紹介し、アフリカ人口の展望と今後の国際協力について概説する。

1 アフリカ諸国の人口データ

アフリカの人口調査は、植民地となった十九世紀末から二十世紀初頭より、主に納税を目的とした簡易調査が行われたが、一九六〇年以降には、近代的な人口センサスが実施されるようになった。七五〜八四年の期間に人口センサスを実施した国は四六にのぼっている (UN, 1992)。しかしながら、出生や死亡に関するデータは人口登録制度が不完全であるうえ、人口センサスから得られる情報も限られていたため、初期のアフリカ人口研究は、ブラス (William Brass) 等による、年齢構造を基礎とする安定人口分析に基づくものであった。七〇年代以降多くの資金がアフリカの人口調査に支出され、七〇年代中期から八〇年代初めに実施された世界出生力調査 (World Fertility Survey) や本書でもしばしば用いている八〇年代後半から現在も継続中の人口保健調査 (Demographic and Health Survey:

DHS) (第1章参照) が実施されており、出生率やその文化的、社会的要因に関する情報がある程度明らかにされるようになった(早瀬、一九九七、一ページ)。

人口センサスは、全数調査であり、人口推計に重要な基礎人口(男女年齢別人口統計) データを提供するものである。センサスは多くの国で十年に一度実施されているが、経済的困難、内戦や政治的紛争などにより、定期的に行われない国も少なくない。エジプトはアフリカのなかでも人口調査の長い歴史を有する国で、第一回センサスは、一八八二年に実施され、一八九七年から十年ごとに行われている(佐藤、一九九七、二四〇二五ページ)。一九五七年はスエズ動乱により中止となり、替わって六〇年に実施された。ナイジェリアのように、実際にセンサスが実施されても政府が調査結果を承認しないために、公式発表がなされない場合がある。ナイジェリアでは、過去五回(一九五二/五三、六二、六三、七三、九一年)人口センサスが実施されたが、公式発表があつたのは五三年、六三年と九一年である(島田、一九九七、一七〇二三ページ)。その原因として島田は、(1)調査実施のための資金と人的資源の不足、(2)人頭税、徴兵制への危惧、(3)国会議員の定数配分への影響、(4)政府歳出の地方政府配分への影響、(5)宗教別人口分布の国政への反映の危惧、の五つをあげている。

ケニアは、サハラ以南アフリカ諸国のなかでは、比較的人口データに恵まれた国で、第一回人口センサスは、一九四八年に実施された。四八年以前は、種々の行政上の集計データのみであった。しかしながら、四八年人口センサスは、詳細な年齢階級による集計がなされておらず、かつ出生や死亡に関する情報は含まれていなかった。六二年人口センサスで初めて詳細な情報を含む調査が行われた (Brass and Jolly eds., 1993, pp. 14-15)。

ジンバブエでは、白人人口のみを対象とした人口センサスは一九〇一年から実施されたが、黒人も含めたセンサスは一九六一/六二年より、初めて実施された (早瀬、一九九六)。

アフリカの人口データに関するジョンソン (Grat-Johnson) の調査によると、アフリカの人口データの最大の問題は、成人人口の年齢申告の正確性の問題であると指摘している (Foote, Hill and Martin eds., 1993, p. 10)。筆者が、年齢別人口の正確性について、一九七〇年代の人口センサス・データについて、国連の年齢正確性指数を試算し検証した結果、モロッコ、ザンビア、ウガンダなど多くのアフリカ諸国で年齢申告に問題があることが明らかとなった (アジア経済研究所、一九七六、二〇～二二ページ)。

人口の将来動向を予測する鍵となる人口動態統計は、アフリカでは人口動態登録制度が

未整備であるうえ、センサスによる出生、死亡、移動データは、被調査者の記憶に頼ったもので、完全性、信憑性の点で問題を含んでいる。最近、注目されている人口データが、前述した人口保健調査である。この調査結果はアフリカの人口動態の推計や将来人口の推計に貴重なデータを提供している。

2 国連の将来人口推計の方法

将来の人口の規模、構造や分布に関する推計は、国の社会経済計画の立案策定に必要な不可欠な資料であり、逆にこれがなければ将来の食糧、雇用、教育や年金、その他厚生福祉など種々の計画策定をすることが困難である。

国連では、各国の最新の各種人口統計データや各国の人口動向に対する政府の認識と対応に関する意識調査などに基づいて、世界ならびにその各地域、国の将来人口の推計を行い、一九五一年以来十数回にわたり推計を改定、公表している。最近では、九八年の人口推計が最新で、一九五〇年から二〇五〇年まで、百年にわたる人口推計を公表している。

国連は、途上国の人口統計の精度が悪いために、各国で報告された人口センサス・データなどを吟味、評価、補正し、過去、現在の人口を推計したうえで将来予測を行っている。過去、現在の人口推計と出生率・死亡率の正しい推定がなければ、将来推計は成り立たないのである（河野、一九八六、四〇～四四ページ）。

人口推計には、基礎人口、出生、死亡および国際人口移動データが用いられる。このなかで国際人口移動は、一部の国を除き、総人口のなかでその比率は非常に小さいため、推計に与える相対的なウエイトは低いといえる。国際人口移動データは、出生や死亡よりも不完全で、非合法移民や難民数を正確に把握しにくいという問題を含んでいる。したがって、国際人口移動の将来は不確定要素が大きく予測が困難であることから、アメリカなど一部の移民受入国や大量の難民を受け入れた国に対して、国際人口移動が推計に反映される。しかし、一時期相当数の移民がいた国の場合にも、将来的には国際移動は収束するという仮定で推計が行われている。アフリカ全体の国際移動率の将来推計は、一九九五～二〇〇〇年には、純国際人口移動率（流出入の差）が人口一〇〇〇人当たりマイナス〇・二であるが、その後は〇と仮定されている。同様にサハラ以南アフリカも、九五～二〇〇〇年のみ同マイナス〇・一、ルワンダも同プラス五四・四であるが、その後は〇と仮定され

てゐる (UN, 1996b)。

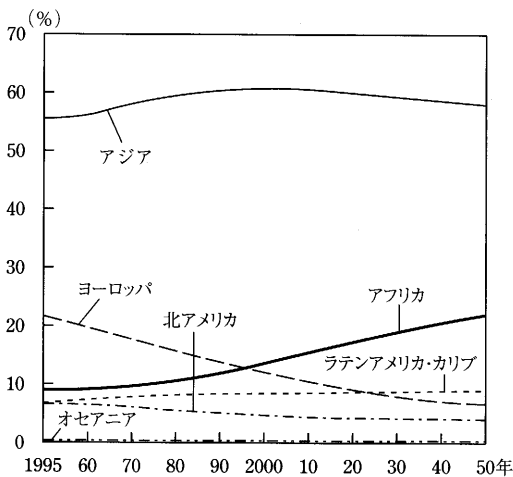
一般に、将来人口推計においては、推計値を一つだけではなく、設けられたいくつかの仮定に応じて複数の推計値を算出することが多い。国連の将来人口推計では「低位」「中位」「高位」「出生率一定」の四つの仮定により推計が行われている。このうち、「低位」「中位」「高位」の仮定は、出生率についてはそれぞれ、出生率低下速度が速い、普通、緩やか、に対応して推計されている。これらの推計結果に基づきアフリカの将来人口について以下に紹介する。

3 アフリカの将来人口

アフリカの人口の将来は、とりもなおさず、今後の人口増加の鍵を握る出生率の動向によっている。死亡率は、エイズによる死因を除けば低下傾向にあり、第3章で述べたように、先進地域との死亡格差は相当程度縮小することが予測されている。上記の四つの仮定のなかでは、中位推計結果が最も利用されるので、これを中心に紹介する。

国連の「中位推計」によると、アフリカの合計出生率（生涯平均子供数）は、一九九五～二〇〇〇年の五・三から二〇一〇～一五年に四・〇に低下し、さらに二〇二〇～二五年に三・三、二〇四〇～四五年に人口置換え水準の二・一に達すると仮定されている（UN, 1996b）。一方、死亡率については、一九九五～二〇〇〇年の平均寿命は五三・八年であるが、二〇四〇～五〇年に七一・九年と十八年伸長すると仮定されている。その時人口は、九五年の七・二億人から、二〇一〇年に一〇億人となり、二〇五〇年には現在の三倍に

図30 世界の地域別人口割合（1950～2050年）



(出所) UN, 1996b.

あたる二〇億人となる(図30)。「低位推計」では、合計出生率が二・一に達するのは二〇三〇年で、二〇五〇年の人口は同二・四倍の十七億人、一方、「高位推計」では出生率低下が遅く、二〇五〇年でも合計出生率は二・六であり、この場合二〇五〇年の人口は同三・三培の二四億人に達する。今後の出生抑制如何で、二〇五〇年人口は、中位と高位で四億人、低位と高位で七億人もの大差が生じる。

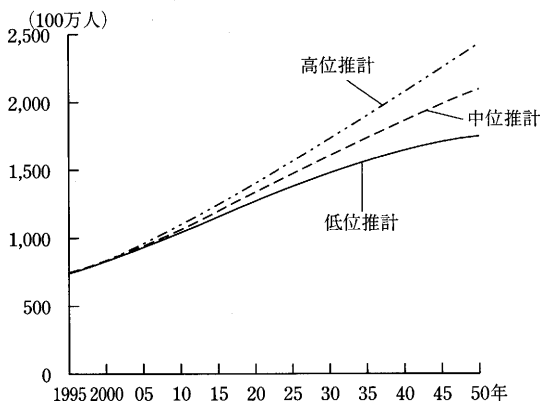
アフリカの世界人口に占めるシェアは、中位推計によると、一九九五年から二〇五〇年に十二・七%から二一・八%へと約九%ポイント高まる。アフリカと比較し、世界の他の地域の人口比率は、同期間においてアジアが六〇・四%から五八・一%へ、ラテンアメリカが八・四%から八・七%へ、北部アメリカが五・二%から四・一%へ、ヨーロッパが十二・八%から六・八%へ、オセアニアが〇・五%で一定と、大部分の地域でその比率は低下する(図30)。

「出生率一定」に基づく推計は、一九九〇〜九五五年の粗出生率である人口一〇〇〇人当たりの出生率四一・五が二〇五〇年まで不変で、粗死亡率のみが九五〜二〇〇〇年の十三・一から二〇四〇〜五〇年に四・九に低下するという仮定の下に行われており、その結果、二〇五〇年の人口は、四五億人というとてもなく巨大な人口サイズとなる。このこ

とは、出生率が不変であれば、二十一世紀中葉のアフリカの人口は、現在の人口の六倍以上となることから、各国は出生抑制に真剣に取り組まねばならないことを示唆するものである。人口の慣性としての特性から、仮に明日から中国のように一人っ子政策を始めても、すでに生まれた膨大な数の人口がいるために、数十年は人口増加を静止させることはできないのである。

同様にサハラ以南アフリカの将来人口推計は、一九九五年の六億人から二〇五〇年には、「中位」の場合十八億人、「高位」の場合二二億人、「低位」の場合十五億人、「出生率一定」

図31 アフリカの将来人口（1995～2050年）



(注) 2045～50年の合計出生率。
 高位推計 2.60, 中位推計 2.10, 低位推計 1.60

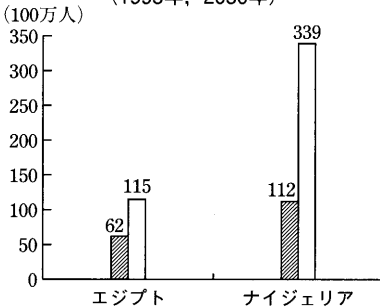
(出所) UN, 1996c.

の場合が四〇億人となる (UN, 1996b)。サハラ以南アフリカはアフリカ全体より出生率が
高い分、増加速度が速くなる。

アフリカの人口大国、エジプトとナイジェリアの場合、中位推計によると、エジプト
は、二〇五〇年に一億人を超え、一九九五年人口が倍増するのに対し、ナイジェリアは同
三倍増の三億人を超えると予測されている (図
32)。エジプトの合計出生率は九五〜二〇〇年
の三・四から二〇一〇〜一五年に二・一の人口置
換え水準に達するのに対し、ナイジェリアは九五
〜二〇〇〇年の五・九から二・一に達するのは二
〇四〇〜五〇年である。政府の人口政策への取組
み方と出生率低下速度の差が両国の人口増加に影
響している。

表27は、中位推計による年齢三区分別構造を示
している。これより二〇五〇年のアフリカ人口
は、年少人口割合が低下し、十五〜六四歳の生産

図32 エジプトとナイジェリアの将来人口
(1995年, 2050年)



(出所) 図26と同じ。

年齢人口、六五歳以上の老年人口割合は上昇することが予測されている。老年人口比率は七%を超え、二〇五〇年にはアフリカでも高齢化が開始することを示している。

従属人口指数（生産年齢人口に対する年少人口と老年人口の和の割合）は、アフリカ、サハラ以南アフリカともに二〇五〇年には一九

九五年の五割減の四七に低下し、生産年齢人口の扶養負担が軽くなることを示している。この指数は日本の高度経済成長期の六五年のものと等しく、アフリカは人口構成においては、経済発展に有利な構造となるであろう。

表27 国連推計による将来人口の年齢構成
(中位推計値) (%)

年 齢	世 界	アフリカ	サハラ以南 アフリカ
0～14歳			
1995	31.4	43.8	45.1
2025	24.3	35.2	37.0
2050	20.5	24.2	24.8
15～64歳			
1995	62.1	53.0	51.9
2025	65.7	60.6	59.3
2050	64.4	67.9	68.2
65歳以上			
1995	6.5	3.2	3.0
2025	10.0	4.2	3.7
2050	15.1	7.9	7.0
従属人口指数			
1995	61.0	88.7	92.7
2025	52.2	65.0	68.6
2050	55.3	47.3	46.6

(出所) 図31と同じ。

おわりに

本書では、アフリカの人口の現状と将来、さらに関連する開発の諸問題について述べてきた。人口増加率の高さ、家族計画の普及の低さ、低い教育水準、都市化の急進、エイズの蔓延、難民の増大とどの問題も深刻で、短期間では解決が困難なものが多い。しかしながら、ケニア、ボツワナ、ジンバブエのように、一九八〇年代以降、教育水準の上昇とともに、家族計画の実行率も高まり、出生率低下を示しはじめた例もある。九〇年代以降、人口増加抑制のために、女性の状況を改善するためのさまざまな人口と開発に関する計画を政策に取り入れる国も増えている。現在の状況をそのまま放置すれば、国連の将来予測の結果で示されるように、より深刻な局面をむかえることは必至であろう。これに対処するため、アフリカ諸国のみならず、日本を含む先進諸国、国際機関やNGO（地方、国、国際レベルの非営利団体および組織）がともに協力し、九四年人口と開発に関する「行動計画」に盛り込まれた目標に積極的に取り組むことが急務である。今やアフリカの人口問題は、その問題の深刻さ、緊急性、世界の他の地域・国への影響の大きさなどからも、当事

国の問題にとどまらず、世界全体の問題として認識し協力しなければならない。

前述のとおり、アフリカでは人口統計の整備が最も立ち遅れている。国の開発政策策定に重要な、人口の現状を正しく認識し、将来の動向を予測するためには、定期的なデータの収集、分析、普及および活用ができるような統計システムの整備・改善が早急になされねばならない。

注(1) 置換え水準とは、ある出生コウホート(同時出生集団。同じ年に生まれた集団のこと)が、次の世代に同じ人口数を維持するために必要な出生力レベルをいう。いったん置換え水準に達すると、出生数はやがて死亡数と均衡状態になり、国際移動がなければ、その人口は最終的に成長を止め、静止人口(人口増加ゼロ、年齢構造一定の人口)となる(ハーブ、ケイン、一九九八、一九ページ)。